

オジロワシ・オオワシ保護増殖事業の実施報告

平成27年3月
環境省北海道地方環境事務所
釧路自然環境事務所

1. 平成26年度オジロワシ・オオワシ保護増殖事業実施結果

※一部、平成25年度未報告案件も記載

(1) 海ワシ類越冬個体数調査**1) 平成25年度海ワシ類越冬個体数調査結果解析等**

- ・これまでの海ワシ類越冬個体数調査等の結果について、越冬期間中の個体数変化や分布変化について多角的に分析し、餌資源の季節的な変化やその他の要因との関係を解析。
- ・本調査によって、越冬期の海ワシが北海道内で季節的な移動と限られた地域への集中と分散を繰り返していることが明らかとなった。
- ・その要因は餌資源の分布や量によるもので、越冬初期には自然餌資源（主にサケ）が中心だが、越冬中期～後期には人為的餌資源にシフトしていた。

2) 平成26年度海ワシ類越冬個体数調査（実施中）

- ・海ワシ類の保護を進める上での基礎情報を得るため、北海道全域の海ワシ類の越冬個体数の経年的な変動、餌資源等を把握することを目的として越冬個体数等調査を実施。
- ・本調査は、オジロワシ・オオワシ調査グループが1980年代より毎年2月下旬に実施している越冬個体数調査も兼ねて、3年に1度を目途に冬季間に5回（11月下旬、12月下旬、1月下旬、2月下旬、3月上旬）実施するもので、越冬期間中の季節的な移動や餌資源の変化についても把握するもの。

(2) オジロワシの風力発電施設による衝突回避検討**1) 平成25年度****① GISによるオジロワシの生息適地モデルの解析**

- ・オジロワシの冬個体数調査の結果と環境要因を用いて、GISによるオジロワシの生息適地モデルの解析を実施。
- ・平成25年度は昨年度までの環境要因（①標高、②浜までの距離、③合計降水量、④最深積雪量、⑤湖沼面積、⑥湾の面積及び⑦植生の割）にシロザケ量（ホッチャレ）を推定したデータを追加したが、精度の向上は見られなかった。

② バードストライク発生に関する要因解析

- ・道内全体に設置されている風車に対するバードストライクの有無を目的

変数に、バードストライクが起こる原因として関係性の高い要因を説明変数に用いて、一般化線形モデルによる解析を行った。

- ・平成 25 年度は新たに発生した事故 5 件のデータを加えるとともに、前述の生息適地モデルを用い、昨年度までの説明変数（生息適地モデルによる生息確率、風車設置地点の標高、風車の最大高さ及び年平均風速データ）に風車のブレードサイズを加えて解析を行ったが、モデルの精度は落ちる結果となった。

2) 平成 26 年度（実施中）

- ・平成 25 年度までの環境要因にさらにオジロワシの餌資源となるエゾシカの捕獲データを追加して、GIS によるオジロワシの生息適地モデルの解析を実施。
- ・環境省が「平成 24 年度北海道地方における風況変動データ作成事業」において作成した北海道の風況変動データと、作成したオジロワシ生息適地地図を用いて、風力発電施設の風況からみた立地適地とオジロワシの生息適地の重なりを GIS により解析することで、北海道における潜在的なバードストライク発生危険地域の地図化を試みた。

(3) GPS による追跡調査

1) 平成 25 年度

オジロワシ・オオワシの行動特性を把握することを目的として、野生復帰させるオジロワシ 3 羽、オオワシ 1 羽に GPS ロガーを装着し追跡調査した。

① 羅臼町放鳥個体

- ・2013 年 10 月 9 日に羅臼町でオジロワシ 1 羽（オス成鳥・2011 年収容・11 根 WTE5）を野生復帰。
- ・放鳥直後は一時ウトロ側に移動し、その後また羅臼側に戻り羅臼港を主な活動場所とし、厳冬期は漁業活動から投棄される魚に依存していると推測された。
- ・その後、羅臼自然保護官事務所において 2014 年 4 月 15 日までのデータをダウンロードして以降、当個体の確認は出来ていない。

② 風蓮湖放鳥個体

- ・2014 年 1 月 15 日に根室市風蓮湖で、オオワシ 1 羽（オス幼鳥・2013 年収容・13 根 SSE2）、オジロワシ 2 羽（雌雄不明幼鳥・2013 年収容・13 釧 WTE7、メス幼鳥・2013 年収容・13 釧 WTE4）を野生復帰。
- ・オオワシ（SSE2）は、放鳥後一時南下し 1 月中は定着性に乏しかったが、2 月より風蓮湖に戻り、氷下待網漁の雑魚に依存していると推測された。平成 26 年度以降は、(株) 猛禽類医学研究所において追跡を継続し 2014 年 4 月 17 日に走古丹にてダウンロード。その後行方不明になっていたが、5 月 24 日に一般の方から野付半島にて目撃したと情報が寄せられた。

- ・オジロワシ（WTE7）は、放鳥地付近に留まり氷下待網漁の雑魚を求めて氷上に出るような動きが観察されたものの、3月20日に死体で回収された（衰弱死）。
- ・オジロワシ1羽（WTE4）については、（株）猛禽類医学研究所にて追跡を行い、2015年2月3日にもダウンロードに成功している。

2) 平成26年度

今年度は、標津町で野生復帰させたオジロワシ1羽（雌雄不明成鳥・2012年收容・12根 WTE1）、八雲町で野生復帰させたオオワシ1羽（雌雄不明成鳥・2014年收容・14胆 SSE1）にGPSロガーを装着し、追跡は（株）猛禽類医学研究所にて実施。オジロワシについてはその後死亡が確認され、オオワシについても再收容されている。

(4) WLCにおける傷病個体の收容・治療・リハビリ等

- ・釧路湿原野生生物保護センター（WLC）において、傷病個体を收容し、治療・リハビリ・野生復帰を行うとともに、收容原因の究明に努めた。
- ・オジロワシ19羽（死体15、生体4）、オオワシ12羽（死体7、生体5）を收容。
- ・オジロワシ1羽、オオワシ1羽を放鳥（ただし、オジロワシについてはその後死亡が確認され、オオワシについても再收容）。
- ・現在、オジロワシ17羽、オオワシ12羽を飼育中（うち、野生復帰困難個体はオジロワシ16羽、オオワシ9羽）

(5) 知床国立公園における取組み

1) 長期モニタリング調査

- ・世界遺産地域の長期モニタリング調査の一環として、平成22年度よりウトロ・羅臼の各自然保護官事務所による越冬個体数調査（越冬期間中月4日程度）を継続。

2) 羅臼海域における観光船からの海ワシ類への餌付け対策

- ・事前調査として、観光船へのヒアリング、餌付けの現状と餌に依存する海ワシ等鳥類の個体数調査を実施。
- ・持続可能な海ワシウォッチングツアーの実施に向けて、餌付けに関する新たな地域ルールの方策やモニタリング体制の検討も含め、知床羅臼観光船協議会や、その他地域関係団体と調整中。

(6) 普及啓発

- ・鉛中毒の防止を目的とした普及啓発用のパンフレットを釧路総合射撃場、北海道猟友会等に配布。
- ・釧路湿原野生生物保護センターの展示・バックヤードツアーの開催等によ

る普及啓発。

2. 平成 27 年度オジロワシ・オオワシ保護増殖事業実施予定

(1) 海ワシ類越冬個体数調査結果解析等

- ・平成 26 年度までの海ワシ類越冬個体数調査等の結果について、越冬期間中の個体数変化や分布変化について多角的に分析し、餌資源の季節的变化やその他の要因との関係を解析する。

(2) WLC における傷病個体の收容・治療・リハビリ等

- ・釧路湿原野生生物保護センター (WLC) において、傷病個体を收容し、治療・リハビリ・野生復帰を行うとともに、收容原因の究明に努める。

(3) 知床国立公園における取組み

1) 長期モニタリング調査

- ・世界遺産地域の長期モニタリング調査の一環として継続。

2) 羅臼海域における観光船からの海ワシ類への餌付け対策

- ・新たなモニタリング体制のもと、給餌量や餌付けに依存する海ワシ等鳥類の個体数調査を実施。
- ・持続可能な海ワシウォッチングツアーの実施に向けて、餌付けに関する新たな地域ルールの新策定について、知床羅臼観光船協議会や、その他地域関係団体と議論を進める。

(4) 普及啓発

- ・釧路湿原野生生物保護センターの展示・バックヤードツアーの開催等による普及啓発。